

成長・貢献・感謝

羽地中学校
 学校だより 55 号
 R1. 6. 26

雨でもやっつけてみよう運動会



午後の部はエイサーだ。今年は男女の入れ替えのタイミングを変えたようだ。羽地中のエイサーは鉦の音とともに、2頭の紅白の獅子が登場し、場を清めながら踊るめでたい獅子舞から始まる。続いてチヨンドラー達を筆頭に大太鼓、締太鼓、パラソクの太鼓隊と手踊り隊が入場する。花ぬめら島、紅八、アツチャメー小、唐船ドリーと続けざまに踊る。個人的には、以前踊っていた高那節(サンザブロー節)エイサーバージョンが好きだったが、とにかく連続して踊るので、迫力がある。

女子の浴衣はそれぞれが購入しているもので、とても多彩で華やかです。太鼓と衣装は大宮中さんからの借用であるので、徐々に学校で増やしたいものです。

エイサーの曲を聞くと外に飛び出したくなるのは、沖縄の人達特有のスピリッツであろう。踊れなくてもだ。祖先の霊を慰めるために始まったとされるエイサーだが、小中学校で踊ったエイサーがやがて青年会へと受け継ぎ、次世代へつないでいく大切な沖縄のこころでもある。

次年度は、玉里団長も言われたように、新しい曲と踊りに挑戦してみたい。ご指導いただいた皆様に感謝いたします。次年度もよろしく申し上げます。

絆輝炎



なぜ羽地中の運動会は6月なのか疑問に思う保護者も多いと思います。私もかつては、9月運動会派でした。取組が夏休みから行いやすく、子ども達が演技を完成させるのに十分な時間があったことが理由です。

息子や娘の運動会も6月でした。当初は陸上競技種目が多く、演技種目まで手が回らなかつたと思いますが、1学期に運動会を終わらせると、2学期が受検や学習に集中しやすいのもあります。それほど、運動会は学校にとって一大行事だったので。暑さは6月も9月もあまり変わりありません。

とにかく、4年前に赴任したときは既に6月運動会が決定しており、新校舎建築中のプレハブ校舎が運動場西側に陣取っており、現在の2/3ぐらいの狭い運動場での運動会でした。

プログラムは6月なので、体育教師達で多彩なりレシー種目は増やしましたが、同時にハッピーダンス、応援合戦と新しい種目にもチャレンジさせていきました。運動会は大成功でした。現在2年目の学級リズムダンスは、各部で行っている応援を取り入れた学級対抗応援合戦が進化した形なのです。リズムダンスは、一部の上手なダンサーのためのダンスではなく、誰でも踊れ、学級の絆を高める工夫のふれあいリズムダンスの流れをくんでいます。

実は、新入生歓迎競技大会も運動会の延長線上にありました。昨年の集団大縄跳びは、運動会での学年演技になるよう取り組んだものです。

これらの取組から明らかなのは、学校経営や学年・学級経営の一環としての運動会なので、集団づくりで学年・学級の所属感や連帯感を高め、支持的風土を醸成することや社会に出て、コミュニケーションを駆使して自分を成長させたり、家族や社会、地域に貢献しているようにスキルを身につけるためでもあるのです。そしてもう一つ、3年生がリーダーになれる機会でもあります。

1学期からその力を高めていくことが運動会の機会です。だから、運動会は6月なのです。

